

「旭川市エイズ等対策推進懇談会」議事録（令和5年度）

日 時	令和5年11月29日（水）午後6時30分から午後8時まで
場 所	旭川市総合庁舎7階 大会議室C（旭川市7条通9丁目）
出席者	参加者8人（五十音順） 石田良太氏，大垣瑞恵氏，柿木康孝氏，北 敏博氏，久保千夏氏，木幡かおる氏， 恒川琢司氏，西野興子氏 事務局6人 鈴木保健所長，平岡感染症対策官， 健康推進課 渡辺次長，渡部補佐，飛田主査，近澤
会議の公開・非公開	公開
傍聴者の数	0人
議事	1 進行役の決定について 2 会議の公開について 3 報告事項 （1）エイズ・性感染症の発生動向について （2）令和4年度旭川市エイズ等予防対策事業について （3）令和5年度旭川市エイズ等予防対策事業について 4 意見交換 「生と性を考えよう！通信」について
資料	・資料1－① エイズ発生動向について 資料1－② 旭川市性感染症発生動向（定点4疾患）について 資料1－③ 梅毒発生動向について 資料2－① 令和4年度旭川市エイズ等予防対策事業 資料2－② 令和4年度HIV検査受検者アンケート結果 資料3 令和5年度旭川市エイズ等予防対策事業 資料4 「生と性を考えよう！通信」 ・参考資料1 旭川市エイズ等対策推進懇談会開催要綱 参考資料2 旭川市エイズ等対策推進懇談会公開規定
会議内容 (1) 進行役の決定について (2) 会議の公開について (3) 報告事項  〔参加者〕 〔事務局〕	旭川市エイズ等対策推進懇談会開催要綱第4条の規定により，市立旭川病院柿木氏が選出された。 参加者の賛同を得て，公開会議として実施する。 ア エイズ・性感染症の発生動向について 資料1－①，資料1－②，資料1－③に基づき事務局から説明。 梅毒が増加している原因として考えられることは何か。 はっきりとした原因は不明だが，旭川市で発生届と一緒に提出していただいている患者調査票の内容からは，性風俗の利用歴や従事歴のある方が見うけられる等，不特定多数との性行為が要因になっていると思われる。新型コロナウイルス感染症で外出自粛の時期は発生が押さえられていたが，徐々に行動制限が解除になるにつれて増加傾向が見られている。

[参加者]	H I V感染症やエイズ患者は、新型コロナウイルス感染症で減少していたということか。
[事務局]	新型コロナウイルス感染症の対応で、多くの保健所がH I V検査を中止していた。そのため、発見機会の減少等の影響があったと思われる。徐々に本市でも検査を再開できるようになり、今年度は夜間検査も2回導入した。
[参加者]	医療機関でも検査数は減少していたが、受診するH I V・エイズ患者は増加している。性産業の方は、以前は職場で検査体制を整備していたが今は減ってきているようである。検査体制が希薄な中、若い人に増加しているのも、インターネットでのアクセスのしやすさがあると思われる。医療機関では受診した患者にはフォローできるが限界がある。若い人の梅毒での入院も増えている。若い世代への教育等が重要であり、感染予防対策をしっかりとやっていきたい。
[参加者]	梅毒は局所症状が出るが、H I Vの初期症状は風邪症状で、その後消失するため、患者が隠れている可能性がある。今後「いきなりエイズ」が増えていくかもしれない。医療機関では、梅毒、H I Vを含めた性感染症の可能性を念頭において、しっかり検査をしていくことが重要と考えている。梅毒の報告はどうなっているか。
[事務局]	梅毒は全数報告のため、全医療機関が対象。性器クラミジア、性器ヘルペス、尖圭コンジローマ、淋菌感染症の4疾患は定点報告のため、本市では3医療機関から月毎に報告してもらう。
[参加者]	医療機関では、男性は尿道炎や尖圭コンジローマなどの患者が来る。性器ヘルペスは繰り返すが、患者は少ない。クラミジアと淋菌感染症は月に数人は受診している。
[参加者]	梅毒が増えているのは、医師の意識もかわってきていると思う。発疹を見たら皮膚科につなぐ等対応しているが、若い医師は梅毒を診たことがない医師が多いと思う。いろいろな感染症が増えている。梅毒の発生届の様式は変更されたか。
[事務局]	近年での変更はないが、平成31年から性風俗の従事歴・利用歴の有無や、H I V感染症合併症の有無等の記載項目が追加されている。旭川市独自の患者調査票では、居住地（市内・市外）や症状の経過、感染経路などの記載欄を設けている。
[参加者]	性感染症で受診した場合は、現在、梅毒検査は必ずしている。無症状でも血液検査で感染が分かる場合がある。自動化法でRPRとTPをみているため、経過も分かる。HIV検査については、希望があれば実施している。
	イ 令和4年度旭川市エイズ等予防対策事業について 資料2-①、資料2-②に基づき事務局から説明。
[参加者]	コロナ禍での普及啓発はどのようにしていたか。
[参加者]	係内の保健師の半数がコロナ患者の対応にあたったため、人員不足となり、優先順位を考えると、この事業を縮小せざるを得なかった。
[参加者]	出前講座はどこに行くのか。
[事務局]	中学校、高校、各種専門学校など。コロナ禍でも何件が出前講座の問合せはあった。
[参加者]	コロナ禍で普及啓発等に制限がある中で学校のメリット・デメリットは何か。
[参加者]	外部から人が入ることができなかったためICTを活用したが、対人でなければ生徒の心を掴みにくい面がある。
[参加者]	外部講師の受け入れができなかったため、ビデオや教科書等の啓発資料を使うしかなかったが、対人の場合は、生徒の反応を見ながらできるため違いがある。
[参加者]	新庁舎でのエイズ検査の会場は決まっているのか。
[事務局]	会場は模索中。もともとは第三庁舎で実施していたが、コロナ対応で使用するこにな

	<p>った。検査中止となった理由の一つでもある。その後、第二庁舎で実施していたが、これから第二庁舎は改修工事に入るため、12月は新庁舎での実施とした。12月はエイズデーの検査があり、予約なしの検査も取り入れ、会場もホームページで周知している。通常は予約制のため、会場は非公開で実施しており、電話申込みの際にお伝えしている。プライバシーの配慮から人目につかず、即日検査のため検体を検査担当に持ち込みやすい場所が望ましい。</p> <p>[参加者] アンケート結果で、検査をテレビ・新聞等で知った人がいるが周知したのか。</p> <p>[事務局] 梅毒の感染者の増加等がニュースや新聞に掲載されると、保健所で検査ができることも記事に掲載されるので、そのような記事を御覧いただいているのではないかと。</p> <p>ウ 令和5年度旭川市エイズ等予防対策事業について 資料3に基づき事務局から説明。</p> <p>[参加者] はばたき福祉事業団のカウンセラーを利用する人はいるか。</p> <p>[事務局] 即日検査の結果で確認検査が必要になった場合に、保健所からはばたき福祉事業団に連絡を入れ、本人の希望にかかわらず、カウンセラーに来てもらう。医師から告知を受けた後や、希望に応じ告知の時点からカウンセラーが同席し、フォローしてもらう場合もある。</p> <p>[参加者] HIVは、1日1回1錠の薬もあり、副作用や薬剤耐性も少ない。現在は慢性疾患としてコントロール可能になってきている。その反面、高齢者の患者が増え、介護等の問題が出てきているのが問題。</p>
<p>(4) 意見交換</p>	<p>資料4に基づき、事務局より説明。</p> <p>[参加者] 「生と性を考えよう！通信」のタイトル、発行時期はいつか。</p> <p>[事務局] タイトルはそのまま、年度末までに発行できると良いと考えている。</p> <p>[参加者] このような通信、情報はありがたい。子ども達は、コロナ禍で情報入手できなかった面もある。高校卒業後は市外に出て行く子どもが多い。進学先でどこまで対応可能かわからないため、早い時期に高校卒業前にできると良い。</p> <p>[参加者] 高校3年生で進学が決まった子は1月下旬までしか登校しないため、高校生に1月下旬に性教育ができるのは非常にタイムリーである。</p> <p>[参加者] HPVワクチンは非常に大事なのでアピールする必要がある。現在は9価ワクチンになっており、90数%予防できることになる。HPVは中咽頭がん、膀胱がんの発生にも関わっているため、男性のワクチンの必要性も性感染症分野で言われている。日本はワクチンの副反応で接種が遅れてしまっている。キャッチアップ接種についてもアピールしていく必要があると思う。</p> <p>[事務局] 事務局案としても、HPVワクチンについてお知らせしたいと考えている。</p> <p>[参加者] ワクチンには色々な考えの方がいるので公的機関がPRする際には配慮が必要。</p> <p>[事務局] 単にワクチン接種を推奨するというのではなく、正しい情報や事実をお知らせしていく。積極的勧奨が再開されたが、北海道の接種率は低迷し課題になっている。9月から、産婦人科医会、小児科医会、旭川医大、旭川がん検診センター、行政で懇談会を開催し、更なるPRとキャッチアップ接種の底上げを検討中。12月2日に教育委員会の学校保健会でHPVの研修会を実施予定、12月17日には旭川医大の小児科医が市民を対象にHPVワクチンの講演を実施予定である。一人でも多くの方に正しい知見を得てもらいたい。</p>

[参加者]	定期接種で受けられず、自費で接種した。副反応の実際のところはどうだったのか。
[事務局]	定期接種は中止していたわけではなく、積極的な勧奨を差し控えていた。ワクチンの種類にもよるが、自費で接種した方へ償還払いの対応もしている。副反応については、その後の調査でワクチン接種との因果関係は確認されていない。
[参加者]	科学的エビデンスはなくとも、ワクチンを打たなければゼロリスクだったのではという考えの人もいる。価値観、考え方の違いがある。マスメディアも影響している。
[事務局]	コロナワクチンは日本でほとんどの人が接種したが、副反応があった場合に、国の審査では広く救済している。
[参加者]	病院でも接種機会を提供し、多くの学生に接種してもらった。その際に学生同士でワクチンについてどう考えるか話し合っていた。話し合っただけで決定できる過程や早い段階からしっかりした文献や情報を提供していくことが大切。保護者の考えもあるため、保護者へのアプローチも必要。子宮頸がん患者に対応する立場にいる者として、リスクもあるが早くに予防できるなら多くの方に接種してほしいと思う。
[参加者]	情報の伝え方が重要である。情報はスマホやQRコードで見ることができるのか。
[事務局]	正しい情報と知識を伝えていくようにしたい。ホームページやチラシの作成、QRコードでも読み取れるようにしている。
[事務局]	中学生より若い世代向けと、高校・大学生向けで学校にQRコード付きのポスターを貼ってもらう取り組み事例が学会発表されていた。
[参加者]	学校では、DVなどは廊下だとQRコードを読み取りにくいので、サイズを小さくしてトイレの個室に貼っている。内容によっては周囲の目を気にするため、そういうところにあるのも良い。
[参加者]	学校だけでなく、イオンなど人の集まるような場所のトイレなどにおいてであると良い。
その他	
閉会	<p>[事務局] 本日の会議の記録は会議の公開規程の第5条に基づき事務局で要点記録方式で取りまとめたものを郵送でお送りし、内容を御確認いただき、お名前は記載せずに公表することとなっておりますので、よろしく願いいたします。</p> <p>それでは、以上をもちまして旭川市エイズ等対策推進懇談会を閉会します。本日はお忙しい中ありがとうございました。</p>

